

令和7年3月28日(金)

第6回高槻市学校教育審議会 資料

義務教育を行う学校の 在り方を考える

～ 学習指導拠点校区がめざす学校 ～

めざす授業

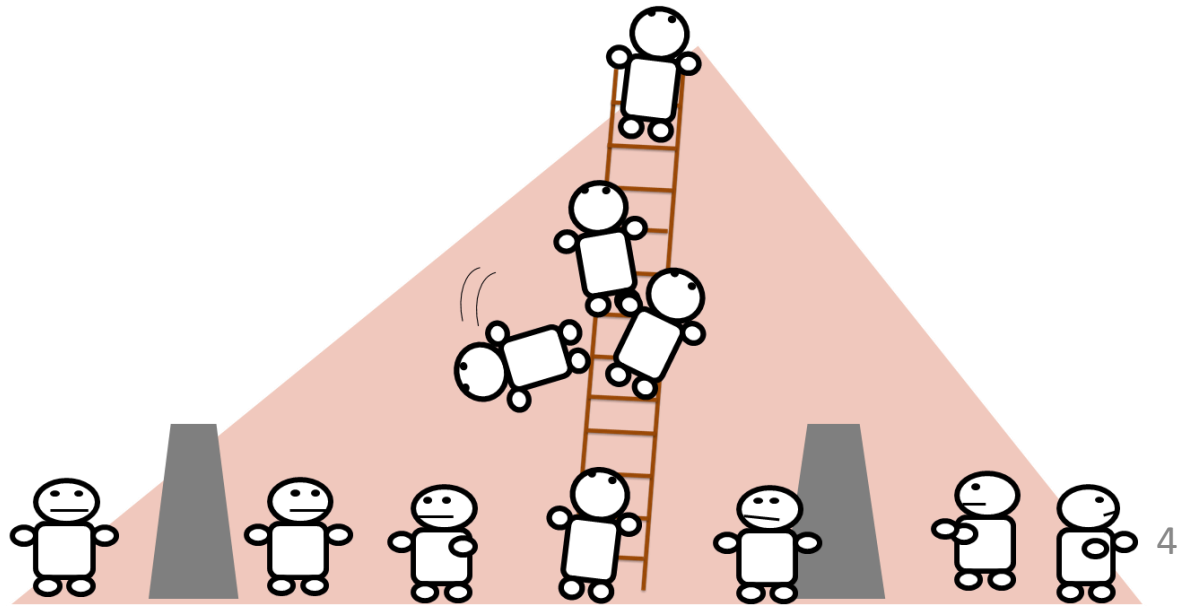
教育課程の基準等の在り方について

(令和6年12月25日諮問)

多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題です。これらに正面から向き合うことは、我が国の社会及び教育の積年の課題でもある「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、社会の分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも極めて重要です。

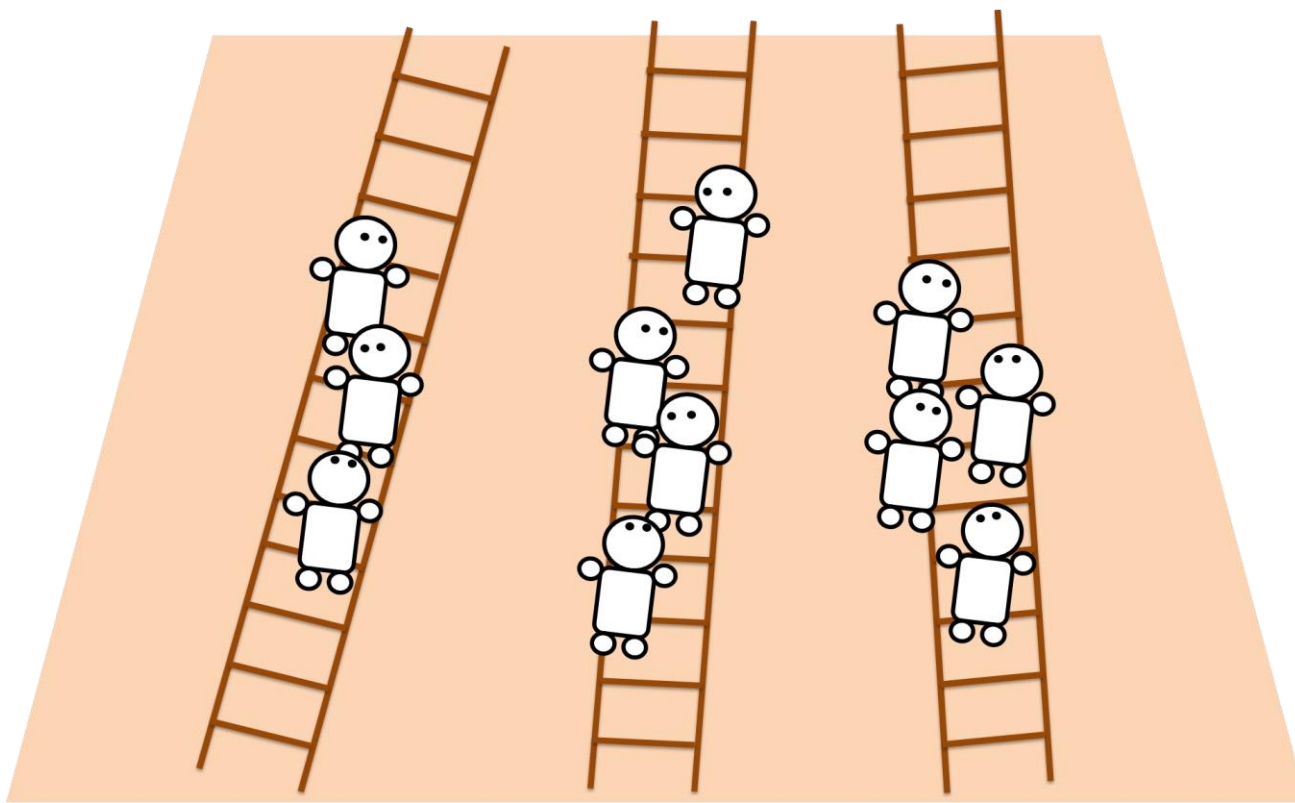
競争社会

- はしごは、学校を表している。
- 知らず知らずのうちに上だけを見るようになる。
- 社会を支える人たちは、さまざまな差別（風評）により分断され、互いに反発を抱いたりする。



共生社会

障がいがある、ないにかかわらず、性別や年齢、国籍
にもかかわらず、すべての人がお互いを大切にし、
支え合う社会



勉強につまずいている子ども

- 勉強がわかるようになりたい。
- 授業のスピードについていけない。
- 先生の説明を聞いてもわからない。
- 基礎基本が定着しない。
- 家に帰って勉強してもわからない。
- どうせやってもできないとあきらめる。

中学校でのつまずきのかなりの部分は、
小学校低学年における学びの浅さに原因がある。

「学力喪失」 今井むつみ著より

- $\frac{1}{2}$ と $\frac{1}{3}$ はどちらが大きいのか？

5年生の正答率 **49.7%**

- $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ の答えに最も近いものは？
① 0 ② 1 ③ 2 ④ 5

中学生の正答率 **47.2%**

→ 計算はできるが、数量はとらえられていない

授業の課題

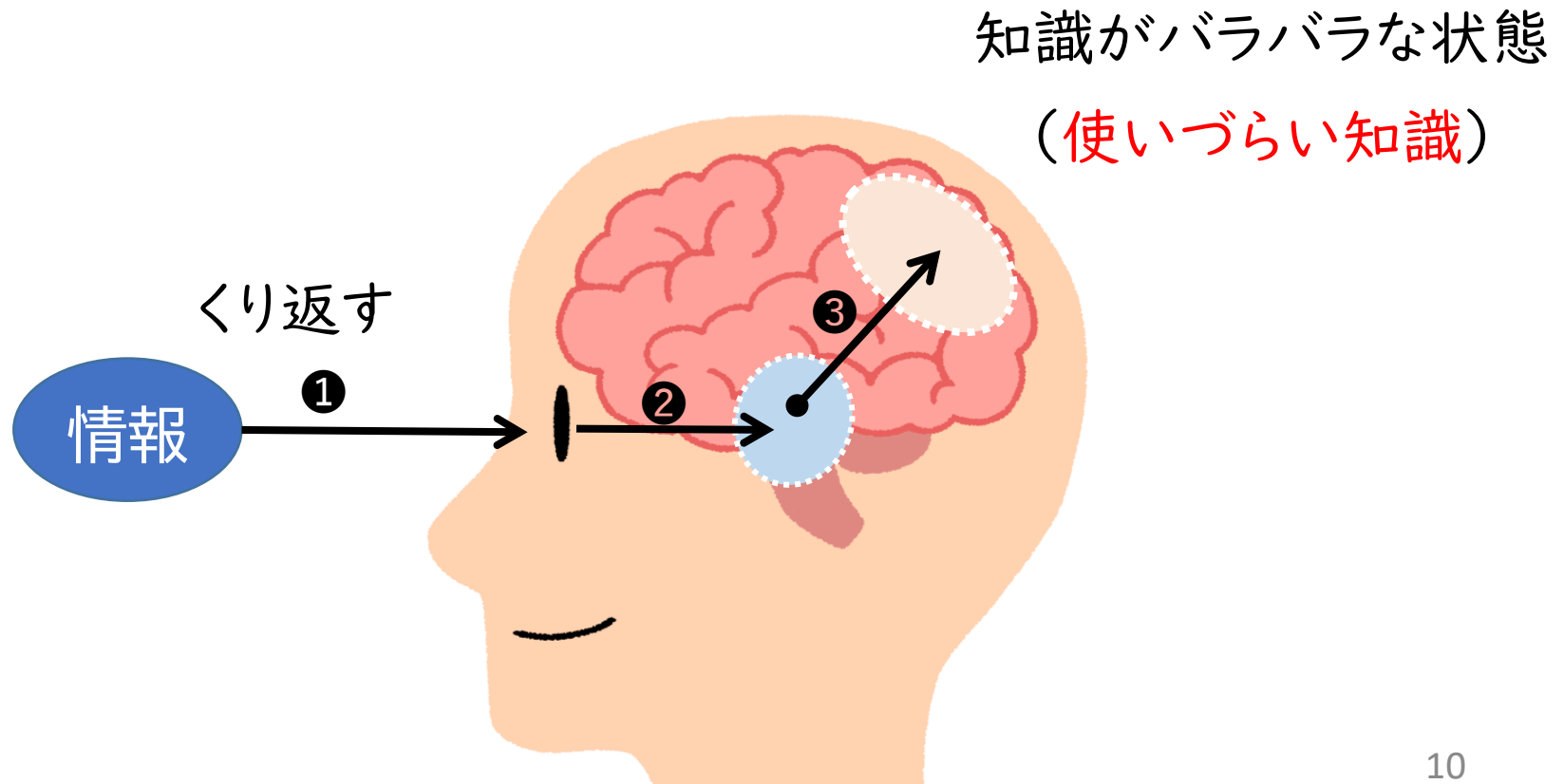
正解主義の授業からの脱却

- 結果主義、暗記主義、物量主義
- 学びの動機づけはテスト、評価、入試
- 入試を理由にして改善されない授業

気になる授業

- 説明スライドが次々と変わり、**黒板には何も書かない**
(またはメモだけを書く) 授業
- 正しい答えや重要語句を**ワークシートに記入**させる
授業
- 一人一台端末を使って**一問一答式**で問題を解かせる
授業
- 黒板に貼り付けたタイマーを使って、**分単位で活動を管理**する授業

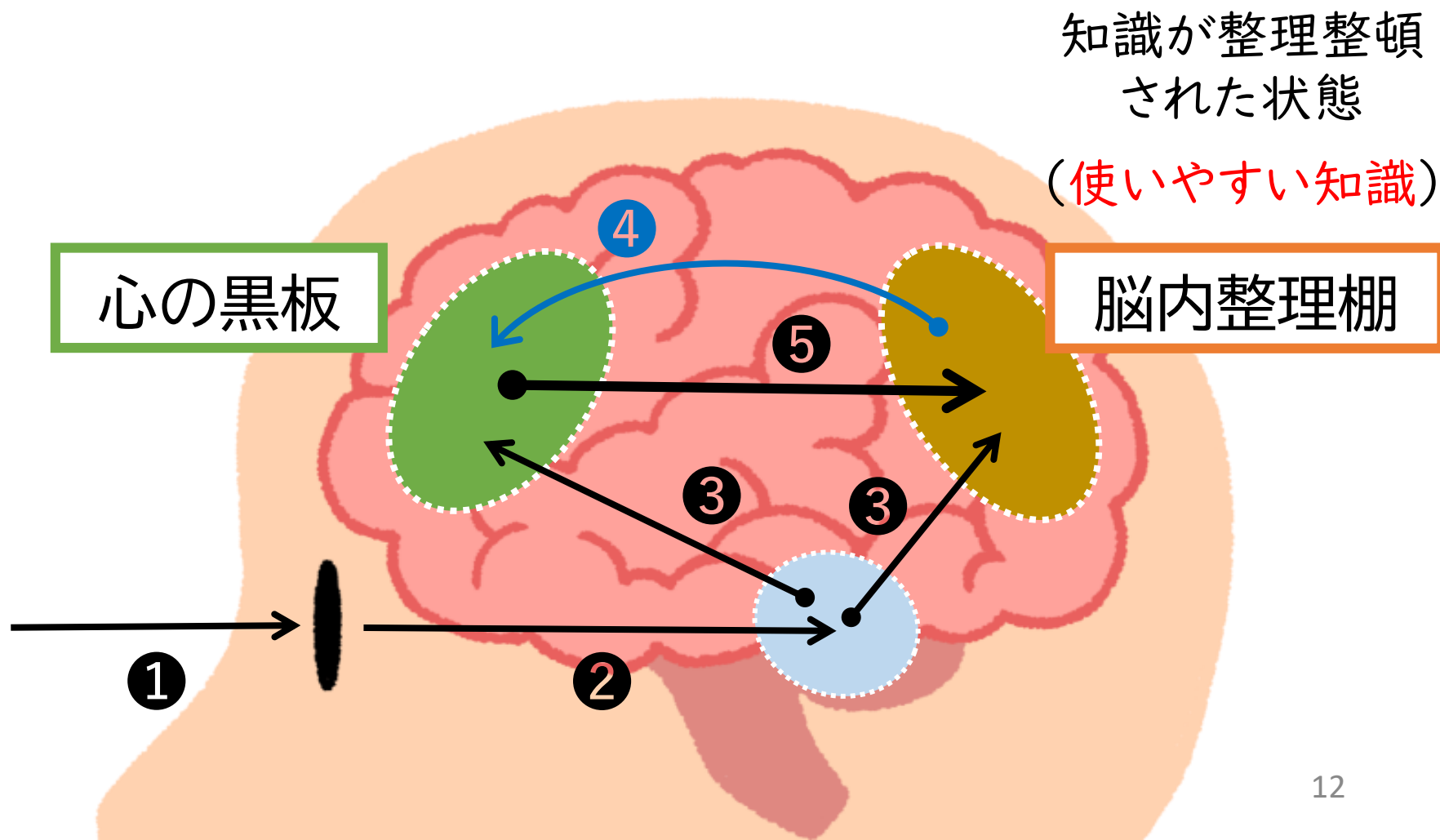
教師が正解を与え、生徒が覚える授業



めざす授業を見直す

- 知識は教師が与えるものではない。
- 知識は、子ども自身が創り上げていくものである。（時間が必要）
- すでに持っている知識を組み合わせ、広げたりすることで新たな知識を自分で創造できるようにすることが、教師の仕事である。

「わかった」とつぶやく授業



めざす組織

多様な専門性を有する質の高い教職員集団 の形成を加速するための方策について (令和6年12月25日諮問)

これまで、そして、これからも**教師は公教育の要**です。
学びに関する**高度専門職**としての教師及び教職員集団
には、新たな学びを展開できる**実践的指導力**を発揮す
ることをはじめ、高度化・複雑化する教育課題に的確に
対応していくことが期待されています。……

保護者・社会の要請

子どもの課題

課題の多様化・複雑化

さまざまな教育論に
振り回される現場

経験の浅い教員の増加

個業型の学校組織

個人の力量、個人の専門性のみで対応

取組の形骸化

課題解決が困難

長時間労働

意欲の低下

自己研鑽ができない

変えなければならない
ものが変わらず、
変えてはいけないものが
変わる状況

力量を高める
機会の喪失

学校組織の課題

- 大量退職、大量採用の時代がほぼ終わる。
- 年齢構成に偏りがある。(ベテランの減少)
- 学校内でのOJTが脆弱になる。
- 教員数が減少する学校は、専門性を高めるのがさらに難しくなる。
- 学校全体の組織力が弱まる。

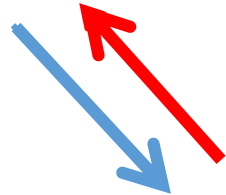
教職員が育つ場所（教室と職員室）

→ INPUT (収集)

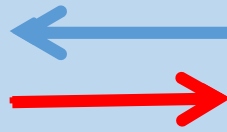
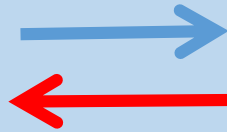
→ OUTPUT (発信)

管理職・指導主事

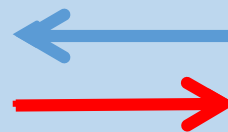
- 授業参観
- 面談(省察)



研究班



教科会議



市教研

- 授業参観
- 意見交換
- 研究協議

- 教材研究
- 研究授業
- 研究協議

- 意見交換
- 指導案検討

- 公開授業
- 研究授業
- 研究協議

研究班の設置

- 研究班は6班で編成
- 教科や経験年数の異なる教師6人で構成。
- 時間割内に設定された会議を使って、授業参観を行い、次の週に意見交換をする。
- 経験のある教員と、経験が少ない教員とでは見えるものがちがう。
- 視点が深まると授業が変わる。

教員の意見

- 授業参観と研究班での交流や、困っていること、**自分の課題等を改めて言語化**する機会がもてた。それによって自身の思考も整理できた。
- 教員の指示や発問だけではなく、生徒の考え方や反応など、**色々な視点から授業を参観**することができるようになった。
- 他教科の授業を様々な教科担当の先生の目線から聞か、**自分にはない目線の話**で参考になった。

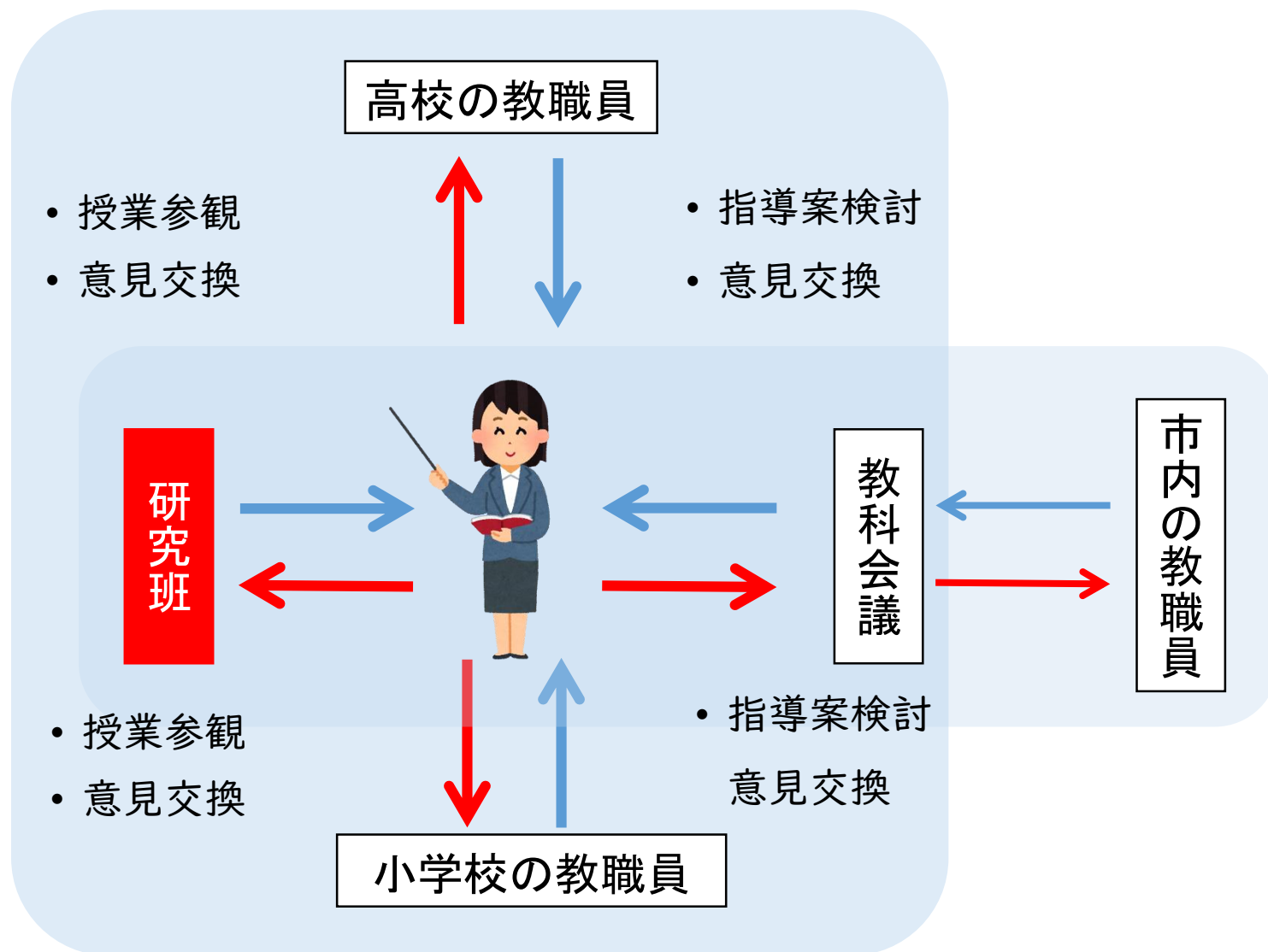
- 「**困り感の共有**」は**効果的**だと感じた。特に、年数の浅い教師は積極的に質問できる人もいれば、できない人もいる。そういった人に、質問しやすい場面を設定するのはとても有効と感じた。
- 誰かに説明できて、初めて「自分のことば」として理解できるので、若手の質問に答えるなかで**ベテラン教師の思考の整理や理解につながると感じた。**

学校運営協議会委員による評価

- 日本の教師は隣の教室から学ぶ。
- でも、先生方どうしの学び合いがすごく弱くなっている
ということが、どの自治体にとって共通の課題になっている。
- だから、**学び合いのシステムをどのように立て直していくのかが重要**で、そこにフォーカスできている自治体や学校と、そうでない自治体や学校とでは、大きな違いが出てくる。

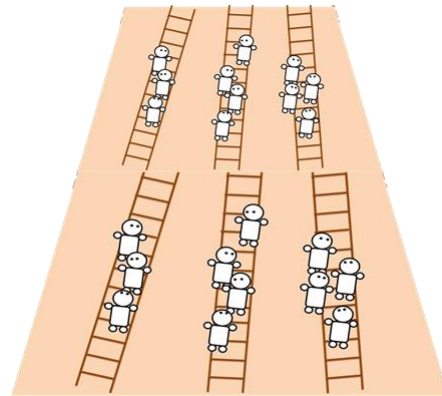
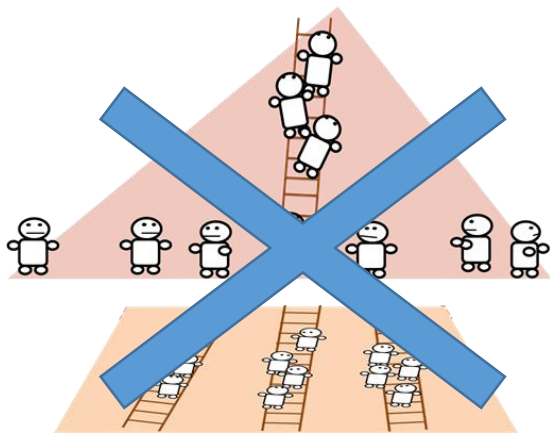
- 第一中学校の一つひとつの打ち手は非常に的確で、中学校改革でポイントになるところを抑えています。
- 中学校では**教科の壁**、小学校では**学級の壁を越えていくための仕組み**がある。
- 異学年での取組や学年を**縦で見た時の学習の見通し**を持つことが重要。
これらが整理されていくとさらによくなる。

縦の見通しを持つ研究体制



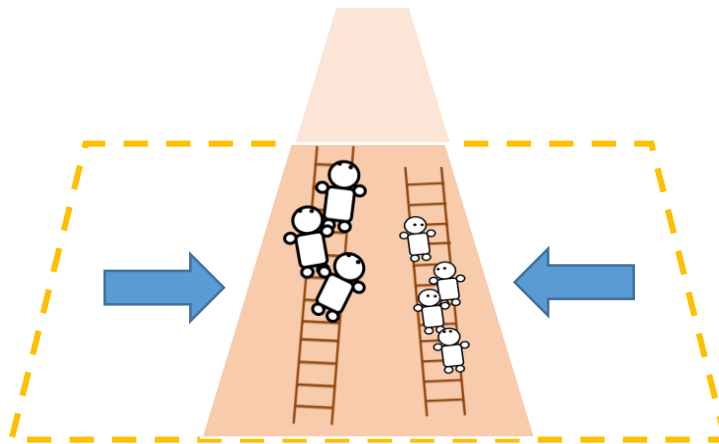
めざす小中連携の姿

- ・ 中学校における高校受験の競争が、小学校における中学校受験の競争に広がり、子どもどうしが分断され、格差が拡大することを危惧。
- ・ 初等中等教育の改革の方向性は、普通教育**本来の目的や目標、理念に立ち戻る**ことが重要。



これからの義務教育の在り方①

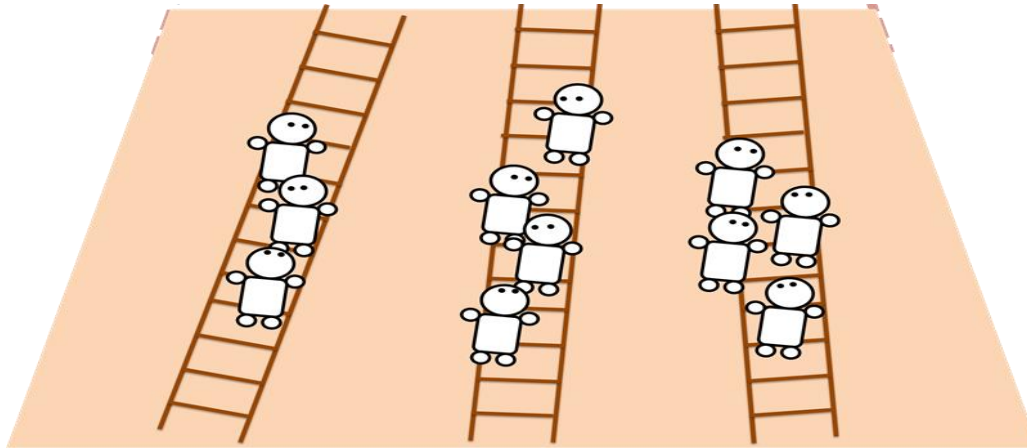
～大きな学校をつくる～



小さな学校
(少子高齢化)

- 同調圧力が強く、まわりにすごく気を使う生活になる。
- 多様な考えに触れる機会が減る。

→ 異質な集団で交流する力がつきにくい。



大きな学校

- 居場所が増える。
- 学び方の選択肢や経験が増える。
- さまざまな意見を聞くことができる。

→ 異質な集団で交流する力がつく。

これからの義務教育の在り方②

～9年間の学びを見取る～

	小学校					中学校				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
子ども	0	1	2	6	1	0	2	1	0	13
先生	0	0	1	0	4	3	1	1	2	12

義務教育学校

1年から9年まで、同じ教職員集団で教育

- ・ 目標、方針、計画に一貫性ができる。
- ・ 教育の流れ、子どもの成長がわかる。
- ・ 教員同士の学びが深まる。

地域とともにあるにじわ学園

よりよい学校教育を通じて
よりよい社会をつくる

「にじわ学園」は、
西大冠小学校の「に」、城南中学校の「じ」、若松小学校の「わ」をとっています。

令和7年1月31日 第3回若紅フェスタ開催



卒業を前に6年生が何を論議したか

特産品となった若紅を

これからどうするか

下の学年に引き継ぐかどうか

中学校での実績

- ・地域とつくる「探究」のサイクル
- ・地域とつながるキャリア教育
- ・企業や行政とのコラボ、提言

「コミュニティ・スクール」導入以降
「夢や将来の目標」を
ターゲットにした取組が進んでいる

第2回学校運営協議会より

「小小で隣の学校がどんなことを
しているかわかっていますか」

「中学校の先生は、子どもたちが小学校で
どんなことに取り組んだか知っていますか」

子どもたちは
間違いなく段差で
つまづいている

「壁とりはらって、夢」

- ・学校間の壁も
- ・地域との壁も
- ・責任を押し付けあう意識の壁も

取り払って教育を進めよう

取組を進めた当時に整理された課題

- ・段差でつまづく子ども
- ・荒れていく中学生
- ・学力課題は先送り
- ・地域の教育力を生かしきれない

「コミュニティ・スクール」

令和4年度

「高槻市学校運営協議会設置校区モデル校」

高槻市での2つの中学校区からのスタート

地域とつくるにじわタイム



にじわタイム 学びのプロセス



地域とともにつくるにじわタイム

《地域の方と取組をつくる》



《地域の方から学ぶ》



《地域に働きかける》



にじわタイム（総合的な学習の時間）の見直し

子どもの実態から考えるにじわタイム



にじわタイムでつけたい力の明確化

にじわタイム（総合的な学習の時間）の見直し

教科の内容と横断して進めてきたにじわタイム



探究のプロセスを意識した各教科の学び方へ
（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）

にじわタイム（総合的な学習の時間）の見直し

にじわタイムでの地域の方の活躍



- ・にじわタイムでコラボする人の整理
- ・にじわタイムで探究する場所やイベントの整理

「校区でつきたい資質・能力」の整備

にじわ学園でつきたい 16 の資質・能力

自分と つながる	仲間・地域と つながる	夢・生き方に つなぐ	社会とつなぐ
自己管理 役割・責任 強い意志 主体性	自他尊重 コミュニケーション チームワーク 働きかけ	職業・社会認識 将来設計 道徳的実践 社会参画	情報リテラシー 課題発見 企画・実行 公共の福祉

グランドデザイン（校区経営方針）の作成



中期的な中学校区の経営ビジョン

地域とともに社会をつくる
自他尊重の行動力の育成
社会参画力・言語能力の育成

今年度の教育目標と重点課題

地域との連携・協働
豊かな人権感覚の醸成
未来に生きる資質・能力の育成

グラウンドデザイン作成に向けた熟議



卒業を前に
6年生が
何を論議したか

「若紅」が目的ではなくて
顔と顔が見えてつながり合う
地域の関係づくりが
目的だったから

若松小学校6年生の論議から出た意見

この6年間で、地域の大切さや人々の
つながりの大切さを学びました。
お父さん、お母さん、先生の皆さん、
本当にありがとうございました。
これからは地域の小さな一員として、
地域の良さや人々のつながりを
大切にしていきたいです。

西大冠小学校 卒業式の「ひとり宣言」から

力がつく学校づくり
世の中をつくる子どもたち
学ぶことが楽しい学校

一緒にやるのが当たり前
この校区に住んでよかった
ふるさとを誇りに思う

学校も地域も子どもたちも
「三方よし」

もっと小小中が
一緒にやらなければ



社会に開かれた教育課程を充実させ、
地域と連携・協働しながら、
未来の創り手となるために
必要な資質・能力を育む取り組みの中で

夢をもって、
生き方を広げている姿があります